



県内で腸管出血性大腸菌感染症(O157、O26)が多発！ 感染予防の徹底を！！

7月の1ヶ月間に、県内で22名の腸管出血性大腸菌感染症(O157、O26)発生届出がありました(食中毒としても2件の発生報告あり)。若狭管内での発生はありません。

O157 は少量の菌数で感染が成立することから、特に乳幼児や高齢者等の施設、また家族内でも感染予防対策を徹底しましょう。症状が出たら早めに受診しましょう。

<予防対策>

- ★ **手洗いの励行(人から人への感染、食中毒予防の基本)** 調理や食事の前、排便後等
- ★ **調理器具は、食品ごとにこまめに流水で洗い熱湯消毒を！**
- ★ **生野菜は流水でよく洗い、食品の加熱は十分に！**
- ★ **焼肉をする場合は、生肉専用の箸を使用し、十分加熱すること！**
- ★ **乳幼児、高齢者等抵抗力の弱い方は、ユッケや生レバー等生肉を避ける！**

食品の衛生的な取扱が大切です。

♡♡マメ知識1♡♡

【「O157」とはどういう意味？】

大腸菌は、菌の表面にあるO抗原とH抗原により細かく分類されており、O157とは、O抗原として157番目に発見されたことを意味しています。昭和57年アメリカのオレゴン州とミシガン州でハンバーガーによる集団食中毒事件で最初に見つかりました。他にベロ毒素が確認されているものに、26,103,111,128,などがあります。

【潜伏期】 2日～14日間(平均3～5日)

【感染経路】 家畜の糞便や水や肉で感染、人から人への感染

【症状】 水様性下痢、腹痛、血便、発熱(37～38度)、嘔吐など

♡♡マメ知識2♡♡

【「O157」の特徴:生存・増殖条件】

- 水の中、土の中で数週間～数カ月間生きています。
- 低温に強いが、熱には弱く、75℃1分間の加熱で死んでしまいます。
- 増殖は、温かく栄養分と水分のあるところで盛んで、からだの中では大腸で増殖します。

☆☆麻しん終息のお知らせ☆☆

5～6月に管内で発生した麻しんは、無事終息を迎えることができ、新たな発生もありませんでした。全国的にも発生報告数が週ごとに減少し、流行は過ぎたようです。



福井県感染症発生動向調査速報

7月(27週6/30N31週8/3)

- 2類 結核 8名
- 3類 腸管出血性大腸菌感染症 22名
- 5類 クロイツフェルト・ヤコブ病 1名
(再掲：若狭管内 結核 1名)

○ 編集後記 ○

今年の夏は暑い日が続きますね。他の地域では感染症発生で対応に追われているようです。若狭地域の平穏が継続しますよう、よろしくお願い致します。

発信者 若狭健康福祉センター

担当 健康増進課 新谷・辻

TEL : 0770-52-1300 FAX : 0770-52-1058

MAIL : w-fukusi-c@pref.fukui.lg.jp

※ ご意見、ご感想おまちしています。